

新500円製造始まる、21年ぶり刷新で2色に 11月流通

2021/6/21 18:00 | 日本経済新聞 電子版



21日に製造された新500円玉。中心部分と外側で色が異なる2色構造が特徴(21日、さいたま市の造幣局さいたま支局)

21年ぶりに刷新される新500円硬貨の打ち初め式が21日、造幣局さいたま支局(さいたま市)であった。現硬貨と同じニッケル黄銅に白銅などを加えた2色3層構造が特徴で、11月に流通が始まる。2021年度は約2億枚を発行する。

発行は21年度前半の予定だったが、新型コロナウイルス禍で自動販売機やATMなどの改修が遅れ、延期になった。麻生太郎財務相は式典後に「偽造防止技術が向上し、貨幣の信頼性が高められている」と話した。

新技術を活用した2色3層構造のほか、「ギザ」と呼ばれる縁の彫り込みの形状を一部変える。キリの花が描かれた表側の縁に肉眼で読めないほど小さい文字で「500YEN」「JAPAN」と入れる。

新硬貨の打ち初め式は大阪市北区の造幣局で行うのが恒例だが、今回は来場者の移動を減らすため支局で開催した。

21年3月時点の500円硬貨の流通枚数は約50億枚で、10年前より約10億枚増えた。キャッシュレ

ス決済が普及すれば小銭の需要が減ると見込まれるが、500円硬貨は「貯金箱」でためる人が多いとの指摘もある。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.